

2019 年度

第6回社会教育委員会

配布資料

2020年 2月12日(水)

1. 中教審答申

(1) 1966年10月31日

- ① 後期中等教育の拡充整備について
 - 1. 後期中等教育の理念(略)
 - 2. 後期中等教育のあり方(略)
 - 3. 後期中等教育の拡充整備に伴う諸問題(略)
 - 4. 「別記」期待される人間像
 - (ア) 第1部: 当面する日本人の課題
 - (イ) 第2部: 日本人にとくに期待されるもの
 - ① 第1章 個人として
 - 1. 自由であること
 - 2. 個性を伸ばすこと
 - 3. 自己を大切にすること
 - 4. 強い意志をもつこと
 - 5. 畏(い)敬の念をもつこと
 - ② 第2章 家庭人として
 - 1. 家庭を愛の場とすること
 - 2. 家庭をいこいの場とすること
 - 3. 家庭を教育の場とすること
 - 4. 開かれた家庭とすること
 - ③ 第3章 社会人として
 - 1. 仕事に打ち込むこと
 - 2. 社会福祉に寄与すること
 - 3. 創造的であること
 - 4. 社会規範を重んずること
 - ④ 第4章 国民として
 - 1. 正しい愛国心をもつこと
 - 2. 象徴に敬愛の念をもつこと
 - 3. すぐめた国民性を伸ばすこと

② 出典: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/661001.htm

(2) 1996年 7月19日

① 21世紀を展望した我が国の教育のあり方について(第一次答申)

1. 不易流行

(ア) 時代を超えて変わらない価値のあるもの → 不易

- ① 豊かな人間性
- ② 正義感や公正さを重んじる心
- ③ 自らを律しつつ, 他人と協調し, 他人を思いやる心
- ④ 人権を尊重する心
- ⑤ 自然を愛する心

(イ) 時代の変化とともに変えていく必要があるもの → 流行

2. 急激に変化していくと考えられる社会

3. 変化の傾向

(ア) 国際化

(イ) 情報化

(ウ) 知識の陳腐化

4. 将来予測がなかなか明確につかない, 先行き不透明な社会にあって必要となる力

(ア) その時々々の状況を踏まえつつ考えたり, 判断する力

(イ) 知識・情報を使ってもっと価値ある新しいものを生み出す創造性

5. これからの子供(ママ)たちに必要となるもの

(ア) いかに社会が変化しようと

- ① 自分で課題を見つけ
- ② 自ら学び
- ③ 自ら考え
- ④ 主体的に判断し, 行動し
- ⑤ よりよく解決する

(イ) 資質や能力

(ウ) 自らを律しつつ

- ① 他人と協調し, 他人を主遣る心
- ② 感動する心

(エ) 豊かな人間性

(オ) たくましく生きるための健康や体力

6. 生きる力

(ア) 上述の資質や能力を, 変化の激しいこれからの社会を「生きる力」と称する

7. 生きる力の定義

(ア) 全人的な力

(イ) 幅広く様々な観点から敷衍することができる

① 図 1: 生きる力

1. 知識

(ア) 過去の知識を記憶していることではない

(イ) 初めて遭遇する場面でも、自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力

2. 感性

(ア) 理性的な判断力や合理的な精神だけではなく

(イ) 美しいものや自然に感動する心といった感性を含む

(ウ) よい行いに感銘し、間違った行いを憎むといった正義感や公正さを重んじる心

(エ) 生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観

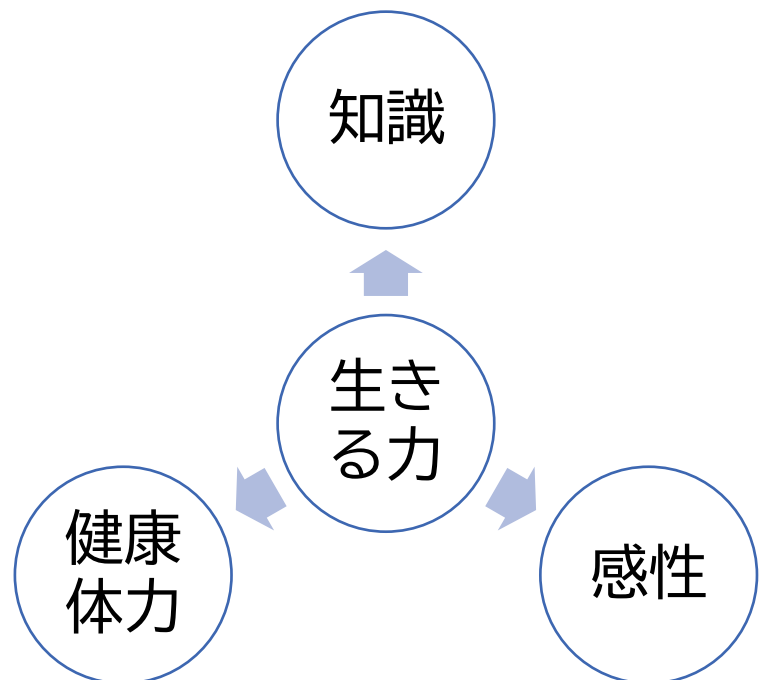
(オ) 他人を思いやる心や優しさ

(カ) 相手の立場になって考えたり、共感することのできる温かい心

(キ) ボランティアなど社会貢献の精神

3. 健康・体力

(ア) 資質や能力を支える基盤として不可欠



8. 学校・家庭・地域社会の連携と家庭や地域社会における教育の充実

(ア) まず第一は、学校・家庭・地域社会での教育が十分に連携し、相互補完しつつ、一体となって営まれることが重要だということである。

(イ) 教育は、言うまでもなく、単に学校だけで行われるものではない。

(ウ) 家庭や地域社会が、教育の場として十分な機能を発揮することなしに、子供の健やかな成長はあり得ない。

(エ) [生きる力]は、学校において組織的、計画的に学習しつつ、家庭や地域社会において、親

子の触れ合い、友達との遊び、地域の人々との交流などの様々な活動を通じて根づいていくものであり、学校・家庭・地域社会の連携とこれらにおける教育がバランスよく行われる中で豊かに育っていくものである。

(3) 社会環境の変化

- ① 「期待される人間像」, 「21世紀を展望した我が国の教育のあり方について」の世界
 1. 生活空間の拡大過程: グローバリゼーション
 2. 科学技術への信頼
 3. 右肩上がりの(経済)の発展
 4. 冷戦の終結(1989年12月マルタ島で米ソ首脳会談)
- ② 生活空間の縮小: ローカリゼーション
- ③ 科学技術の負の側面の露呈
- ④ 経済の停滞(日本の場合)
 1. 富の偏在
 2. 上がらない所得
 3. 企業留保の拡大
 4. 貧困化
- ⑤ 社会の変化
 1. 少子高齢化
 2. 婚姻件数の減少
 3. 離婚件数の増加?
 4. 片親家庭の増加

(4) 教育の場としての家庭の変化

- ① 家事分担の変化
- ② 情報機器の普及・個別化
 1. 口頭言語から情報機器を介しての情報伝達
- ③ 家庭での口頭言語の役割低下
 1. 思考への影響
 2. 識字教育への影響

2. “PISA2018”

(1) 結果

① 2000年以降の日本のランキング

実施年	数学的リテラシー	科学的リテラシー	読解力
2000年	1位	2位	8位
2003年	6位	2位	14位
2006年	10位	6位	15位
2009年	9位	5位	8位
2012年	7位	4位	4位
2015年	5位	2位	8位
2018年	6位	5位	15位

(2) 批評

① 学校教育における貧困な情報環境

(3) 公的教育費の対 GDP 比率 国際比較(2017年)

順位	国名	比率 %	順位	国名	比率 %
1	ミクロネシア	12.46	101	イラン	3.79
2	ノルウェー	7.98	102	エルサルバドル	3.75
3	スウェーデン	7.67	103	ロシア	3.74
4	デンマーク	7.63	104	アイルラン	3.70
5	アイスランド	7.46	105	ガーナ	3.62
6	コスタリカ	7.40	106	ヨルダン	3.60
7	ベリーズ	7.38	107	日本	3.59
8	ボリビア	7.29	108	インドネシア	3.58
9	スワジランド	7.13			
10	ブータン	7.03	154	南スーダン	0.98

(4) 結果に対する批評の問題点

- ① ほとんどの批評は、日本語教育について述べていない
- ② 日本語を母国語とする人は全て日本語能力があるとの前提で批評している
- ③ 実際は、通常の会話が成立しない学生も存在する(偏差値 50 程度の大学)
- ④ ましては文章構成は会話とは全く異なるスキルとテクニックが必要とされることを理解していないことが多い
- ⑤ 全ての学力、生きる力の基礎は母国語である
- ⑥ わが国に於いては日本語能力が重要である
- ⑦ ただし、日本語能力とはどのようなものかの一般的定義が定まっていない

(5) 情報源

① OECD 生徒の学習到達度調査 2018 年調査のポイント

1. https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point.pdf

2. Accessed: 2019/12/04(水)
- ② OECD 生徒の学習到達度調査 2018 年調査 萩生田文部科学大臣コメント
 1. https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/02_oecd.pdf
 2. Accessed: 2019/12/04(水)
- ③ OECD 生徒の学習到達度調査 2018 年調査 結果の要約
 1. https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/03_result.pdf
 2. Accessed: 2019/12/04(水)
- ④ OECD 生徒の学習到達度調査 2018 年調査 問題例
 1. https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/03_result.pdf
 2. Accessed: 2019/12/04(水)
- ⑤ OECD、PISA の結果をみると日本はもはや”オタク”ですらない
 1. https://www.huffingtonpost.jp/satoshi-endo/japan-pisa_b_14095374.html
 2. Accessed: 2019/12/04(水)
- ⑥ PISA(OECD 生徒の学習到達度調査)で分かる日本の教育問題
 1. <https://cocoiro.me/article/20321>
 2. Accessed: 2019/12/04(水)
- ⑦ 公的教育費の対 GDP 比率 国際比較
 1. <https://www.globalnote.jp/post-1479.html>
 2. Accessed: 2019/12/04(水)

3. (わが国の)現代社会における言語問題

(1) 問題点

- ① 社会人の言語能力の低下
- ② 学力と読解力には関連がある

(2) 出典

- ① 新井 紀子,20/1/9,19/9/6 5:10:00,「教科書が読めない人」は実はこんなにいる,「名門高校生・東大生」でも不安が残る読解力,東洋 ONLINE,<https://toyokeizai.net/articles/-/300847>
- ② 岩本 宣明,20/1/9,18/12/26 7:00:00,衝撃!「日本語が読めない日本人」は案外いる,AI に仕事を奪われる、中学生以下の大人たち,東洋 ONLINE,<https://toyokeizai.net/articles/-/256321>

4. 日本語能力習得の基礎

(1) 日本語能力とは何か(私的な規定)

① 口頭言語

1. 発信された音声情報を受け取ることができる

(ア) 語彙の一般的理解

- ① 語彙の意味する内容を文脈により理解することができる
- ② 語彙の意味の差異を使用された文脈で判断することができる

(イ) 語彙の使用方法を判断することができる

- ① 意見か
- ② 感想か
- ③ 事実か
- ④ 意見が事実に置き換わっていないか
- ⑤ 感想が事実に置き換わっていないか
- ⑥ 1次情報か
- ⑦ 2次情報か
- ⑧ 伝聞情報か
- ⑨ 直接情報か

(ウ) 論理的推論を評価できる

- ① 論理矛盾はないか
 1. 木偏に赤をリンゴと読むことにしよう
 2. それでは木偏に黄色はなんと読むか
 3. みかん → ×, オレンジ → ×
 4. 答は「横(ヨコ)」だよ
 5. これは、前提が誤りなら解答は何でもよいとする論理矛盾に陥っている

2. 文章語

(ア) 文章の種類によって読み方が異なる

- ① 説明文, 解説文, 論文
- ② 楽しみのために読む作品

(イ) 説明文, 解説文, 論文

- ① 読む前に
 1. 目次で全体構成を確認する
 2. 前書, 序文, おわりなどに目を通し, 著者の意図を把握する
 3. 読む必要のある箇所を確認する
 4. 索引で求める情報を探す - 日本人の著者の場合, 索引がお粗末な著作がある
- ② まず文章をそのまま理解することができる
 1. 語彙, 構文
 2. 段落
 3. 主語, 述語

- ③ 事実の抜き出し
 - 1. 箇条書きできるか
- ④ 例示の判別
- ⑤ 文章の目的の把握
- ⑥ 例示
- ⑦ センテンスの重要度の判定
- (ウ) 楽しみのために読む作品
 - ① Niccolò Machiavelli
 - 1. 読書を2つに分けていた
 - (ア) 過去の聖賢著述
 - ① 手稿本を
 - ② 書齋で読む
 - (イ) 楽しみのために読む作品
 - ① 印刷本を
 - ② 戸外で読む
 - ② レトリックの理解
 - ③ 行間を読む

5. 子どもが日本語能力を修得するための家庭での役割

(1) 日本語に慣れ親しむ

- ① 親からの語りかけ
 - 1. 語りかける - 日本語のシャワー
 - (ア) 音声言語と行動のリンク
 - (イ) 音声言語で使用する語彙の概念を把握させる
 - (ウ) 話者の表情と音声
 - 2. 物語を読む
 - (ア) 日本語のシャワー
 - (イ) 文章語への誘い
 - (ウ) 文章構成の理解
 - ① パターン
 - ② 登場人物等の役割分担
 - ③ 価値判断基準

(2) 語りかけの重要性

- ① 母国語が形成されるのは、一生に一度
- ② 大体 teen-ager の初期の時代
 - 1. この時代に利き腕等も決まってくると言われている
- ③ 普通の子どもたちにとり bilingual は非常に負担が重い
- ④ まず、母国語を形成し、母国語の能力を高めるのが、全てに優先する